



令和7年度 第2号

文責：小嶋 瞳仁

11月18日（火）に語学講師の 佐々木 洋平 様をお招きし、国際ビジネス科3年生37名を対象とした、『韓国文化についての講演』が行われました。

令和6年度では、釧路での国別宿泊延数が第6位である韓国文化や、海外から見た釧路の魅力について学び、地域理解を深めるとともに地域振興について考える機会となりました。学校や報道などでは知らないことができない内容に触れ、講演中になんども驚きの声が聞こえるなど、生徒にとって大変勉強となる2時間を過ごすことができました。

< 講 師 > 語学講師 佐々木 洋平 様

< 内 容 > 1. 韓国文化について 2. 海外から見た釧路 3. 外国人観光客受け入れの留意点
4. その他

<生徒の感想>

話し方やまとめ方が上手で、聞いていてとても面白かったです。冒頭のアイスブレイクでは日本語に似ている単語や発音の仕方を聞いて、日本語と近しいということを感じました。色々な国の人と関わった話を聞いて、私は国際的な仕事に就く予定はないが、人生経験として色々な国の人と関わりを持つことは見聞を広げるためにも必要なことだと思いました。インドネシアの女の子がマクドナルドのハンバーガーを食べながら来た話がとても面白かったです。イスラム教は肉系全般が厳しいものと勝手に思っていたが、意外とゆるくて面白かったです。日本語を教えるのは難しいというのを聞いて、確かに自分たちは普段から使っているから気がつかないけど、日本語を知らない人に説明してと言わいたら多分教えられないと思います。韓国人が日本に来て買う物が爪切りなのは、韓国には爪切りが無いのかなと思いました。ビジネスの観点から見ると観光客向けの商品を作るのも大切だと思いました。皆集中して聞いていて、とても有意義な講演でした。（K・U）



使われる文字は日本より少ないけど、子音・母音・パッチムの組合せがむずかしいなと感じました。また日本人が普段から使わない発音が多くて、「ウ」「プ」「ム」等、最後が「う」で終わるやつは、口を閉じて発音することがわかった。「さようなら」も、立ち去る人相手には「안녕히 가세요 (アンニヨンヒ カセヨ)」だけど、その場に残る人には「안녕히 계세요 (アンニヨンヒ ケセヨ)」と使い分けがあって難しいし、最初の発音に濁音があると「ッ」から始まる言葉もあって、日本語との発音の種類の違いをよく感じることができました。また、少しアイヌ語っぽくもあるななんて思ったりもしました。（F・I）



韓国文化のことを少しあは知つていて、韓国語も周りで聞いていたけど、あらためて触ると「えー！」ってすることが多く、日本語に似ているところなどにびっくりしました。ハングル文字は覚えたら読めそうだなと思いましたが、話すのは難しそうです。でも、あの短時間で簡単な韓国語を読めるようになったのがすごく、少し興味が湧きました。(Y・M)

- ・普段触ることができない韓国語を学べて良かったです。
- ・韓国語のハングル文字をプリントを見ながらだけど少し読めるようになったのが嬉しかったし、30分くらいで読めるようになるとは思っていなかつたのでビックリしました。
- ・佐々木さんの話を聞いて韓国に少し興味を持ったし、その他の国の人々の話を聞いて、世界には日本とまったく違う文化の国が本当にたくさんあるのだと、あらためて知ることができて、とても良い経験になりました。



(Y・N)

- ・韓国の文化や、言葉を知ることができて楽しかった。
- ・他の国の方々は釧路を北海道でひとまとめにしているため、サッポロビールなどが人気だということを知りました。
- ・韓国語は、自己紹介、挨拶を学びました。
- ・また、ハングルについて習い、母音は10個、子音は14個を理解することで簡単な言葉が読めるようになりました。
- ・韓国アイドルが好きだから、この機会に韓国語を覚えようと次の日から動画を見ています！講師の方が英語よりも韓国語の方が簡単と言っていたので、頑張って覚えようと思います。
- ・釧路でもホームステイを受け入れしていることを知って驚きました。
- ・私も韓国に行ってみたいと思いました。
- ・2時間、とても楽しかったし良い経験になりました。

(Y・M)

